

<白金標準、8750 円以下は買いの域であり、強気維持・・・>



(出所：オアシス)

中東情勢のリスクに伴う原油高が、エネルギー価格を押し上げインフレ懸念を高めるなど、FRB の利上げ確率を押し上げている。そのため為替市場では、円安・ドル高の動きが続き、ドル建て価格の軟調から円建て価格も戻りが抑制された値動きを見せている。特に白金標準先物は、9 月に WPIC 第 2 四半期 PGM 需給報告を受け、第 1 四半期における 2026 年プラチナ需給が 9 トンの供給不足から 8 トンの供給過剰へと予測が変化し、その後一時 8470 円まで下値を模索するも FOMC におけるタカ派の動きを織り込むと、巻き戻しを強めた戻り基調を見せている。特に供給過剰の予測を受けても 8470 円で下値が止まった事は、2026 年の最終的な需給バランスは、フィッチ・ソリューションズの研究部門 BMI がプラチナで 204000 オンス (6.3 トン) 不足を予測するなど、供給不足へ傾く傾向が強いと見られており、原油高：金利高：ドル高の一時的なリスク要因で売り込まれても、8500 円を下回る圧力は行き過ぎであり、需給を無視した価格水準に思える。そのため白金標準先物は 2026 年に入り、8500 円～9500 円のレンジ相場を続けており、外的なリスク要因で売り込まれた 9000 円以下は買い戻しの値動きを強める相場であり、8750 円以下は買いの域に思われる。

<テクニカル>

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では **MACD** が下げ止まり、**シグナル** は下げている。RCI では**短期**が上昇し、**長期**は切り下げている。また指数平滑移動平均線のレンジが縮小しており、日足が 8860 円を超える雰囲気に見える。

レポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 5,615,000 円(2026 年 9 月 28 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 5 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 95,040 円(2026 年 9 月 28 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>